

CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE さいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEE さいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	さいたま市中央区新都心計画	階数	地上17F
建設地	さいたま市中央区新都心4番4、4番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	400 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2019年10月29日
敷地面積	1,517 m ²	作成者	川口土木建築工業(株) 嶋田 真弘
建築面積	669 m ²	確認日	2019年10月29日
延床面積	9,236 m ²	確認者	川口土木建築工業(株) 嶋田 真弘



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		その他
総合 本建物は、北与野駅のほど近くに計画された集合住宅である。 多くの樹種を植栽した緑地を豊富に設け室外環境の保全に配慮した計画となっている。		0
Q1 室内環境 ・住戸の開口部の遮音等級はT-2等級とし、室内の音環境に配慮する。 ・全面的にF☆☆☆☆の建材を採用し、室内空気質の健全化に配慮する。	Q2 サービス性能 ・劣化等級3を満足し、躯体の長寿命化に配慮する。 ・耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。	Q3 室外環境 (敷地内) ・限られた敷地内に出る限り緑地を設け、温熱環境の向上に配慮する。 ・多種多様な樹種を植栽し、生物資源の保全に配慮する。
LR1 エネルギー ・適切な断熱を行い、建物外皮の熱負荷抑制に配慮する。 ・効率のよい潜熱回収型の給湯器を採用することで、省エネルギーに配慮する。	LR2 資源・マテリアル ・ノンフロン断熱材を採用し、フロン回避に配慮する。	LR3 敷地外環境 ・限られた敷地内に出る限り緑地を設け、温熱環境の向上に配慮する。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
さいたま市中央区新都心計画

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質						3.1		
Q1 室内環境			0.40			3.4		
1 音環境		2.0	0.15	3.3	1.00	3.0		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50			
1.2 遮音		1.0	0.50	3.7	0.50			
1 開口部遮音性能	<住居>遮音性能T-2	1.0	1.00	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能	Dr=50	-	-	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	2.0	0.20			
1.3 吸音		-	-	-	-			
2 温熱環境		1.6	0.35	4.0	1.00	3.5		
2.1 室温制御		2.2	0.50	4.0	1.00			
1 室温		3.0	0.63	-	-			
2 外皮性能	<住居>断熱等級4を確保	1.0	0.38	4.0	1.00			
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		2.0	0.25	3.7	1.00	3.3		
3.1 昼光利用		1.8	0.30	3.4	0.50			
1 昼光率	<住居>昼光率:3.8%	1.0	0.60	5.0	0.50			
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		1.0	0.30	4.0	0.50			
1 昼光制御	<住居>カーテンを設置、上階バルコニーにより庇を形成	1.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境		3.6	0.25	3.6	1.00	3.6		
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	<共用><住居>全面的にF☆☆☆☆の建材を採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.8		
1 機能性		2.4	0.40	2.6	1.00	2.5		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60			
1 広さ・収納性		-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	1.00			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40			
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	3.0		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3を満足	5.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクトにSUSを採用	4.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上の配管を2種類以上採用し、Eの使用なし	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-			
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-			
3 電気設備		3.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-			

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高:2.96m以上確保	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱等級4を確保	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.85	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル系床材(管理室)	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	全てA種の断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		排出率:75%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪・駐車スペースを設置している 管理用駐車場を設置している 出入口付近での渋滞緩和に配慮している	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ量の推計、回収容器を設置している ディスプレイを設置している	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの一部を満足し、広告物照明の設置はない	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	